

第2回 有田町総合計画審議会（会議概要）

日 時：平成29年1月26日（木）10：00～11：45

場 所：有田町婦人の家 軽運動室

出席者：【委員15名】岩崎数馬、岩永喜代次、原田一宏、久保田均、今泉正子、川内文昭、庄山嘉、川尻敦子、岩谷綾子、道津功、樋渡毅彦、松尾利興、山口睦、徳永純宏、小坂智子

【事務局3名】木寺寿、川久保哲、志賀修

【欠席7名】深川祐次、岩永康則、岩永節美、久家郁子、山口修、王寺直子、富吉賢太郎 ※敬称略

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報告事項

(1) ありたのあしたアナタカラ～住民委員会2018～の経過について

志賀：(資料1に沿って説明・VTR放映)

岩崎：1回目の審議会では皆様方から、参加者が集まるだろうかという心配があったのですが、町民の思いというものはすごいですね。特に若い人の意見は、表情から未来へ夢を描こうという思いが伝わってきたのかなと私は思いました。3回目は我々も傍聴できるという形ですね。3回目は2月5日午後1時からということで皆様方も傍聴やオブザーバーとしても参加できます。

4. 議 事

(1) 各種団体等アンケート調査について

木寺：いまの有田に対しての課題と、将来の有田に対しての期待、課題などについてアンケートをいただいております。これをすべてご紹介するには時間が足りませんので、アンケートを提出していただいている皆様方に全体の概要を一言ずつ発表していただければと思います。

岩崎：私は観光ガイドに所属しておりまして、昨年はとりわけ秋の有田まちなかフェスティバルや秋の陶磁器まつりなどで有田を訪れるお客さんも多かったのですが、

やはりいろいろガイドをすると、有田ほどすごいところはないなと私は感じているのです。これだけ多くの観光スポットがあるところは他にはないのじゃないかなと私は思いすし、一つ一つの観光スポットにストーリーがあるのですね。私の経験上、一つのスポットに最低30分はお話ができます。そういう観光スポットがいっぱいある。それに登場する歴史的な偉人賢人、こういう方がものすごく多いです。それだけ有田の歴史というのは、凄みを体感するという感じで、これを活かさない手はないなということですね。そういう思いを書いたアンケートになっております。観光のまちとして、通年型の観光地になっていけば、当然ほかの産業も生きてくるでしょうし、人口も増えてくると思うのですね。長未来的なことを考えて、何とか観光のまちとして、立ち上げてその方向に行きたいなという私の思いです。そのためには、先ほどの住民委員会の中にも、16番の町民みんながガイドな町とありますが、やはり住んでいる人、町民がまちのことを知ってガイドできる、そのことによって有田町に魅力を感じ、町を愛することができるのではないかなと、ここがやっぱり基本で、そういう態勢にもっていければ、そういう思いが町外の方にも波及していくのではないかと思います。各方面でその取組はできると思うのですが、子どもたちであったり、各集落であったりですね、有田のことを知るといった機会、プログラムを組んでいって、ハード面はハード面で最低限の整備はしていかななくてはいいませんが、そういったところが私の意見です。

樋渡：私は自治公民館長会として出ておりますが、教育現場で働いております。小学校なのですが、子どもたちに有田のよさを知らせるといって教育に力を入れているわけですが、歴史、伝統、いろいろなものがある有田ですので、こういったところに子どもたちが誇りを感じることで、そして、そこに残れるよう町に希望するのは、産業とかそういった、しごとということになろうかと。ですから、若い人というのは福岡などの大都市圏に出て行く、図らずもやはりそこに仕事が多いからということがありますので、有田の田舎のよさももちろんたくさんあるわけですが、そこに残るためには仕事を増やすしかないということで、雇用の創出あたりを考えていかなくてはいいかなという形で思っております。

松尾：私は老人クラブ連合会のほうから来ておまして、老人の立場からということで、やきものや農業は皆さん分かっているので、あえて老人の目から焦点を合わせました。課題ですが、独居老人が非常に増えておるわけですが、そういう対応をやっていただいていますけど、まだまだ増える一方です。それと空き家についても無用心でもございますが、活用を考えられないかということと、いわゆる語り部といいますが、町民のガイド、特に子どもたちに有田の歴史を知ってもらって、有田に対する誇りを持たせるという意味ではいろんな形で、語り部的なものがあるということなんです。それから、問2については、いわゆる健康寿命、年寄りがいまから増えていくわけですが、やはり自分のことは自分でできるような、そういう手立てをさ

らにさせていただきたいということと、心配については先ほどから何度も出ているようなことです。裏面ですが、庁舎についてですが、地理的にも中心になるような所にモダンな建物ができないものかということで、いろんな観光関係、仕事関係で有田に来るかたも役場に来たいといひましても、現在のところ、交通の便もあまりよくない、場所的な便もございます。そういうところをお願いできればということですが、2番ですが、上海飯店の裏に自衛隊が整備した土地が荒地になっておりまして、老人会でも何回も行きまして、あそこで何かできないかと、パークゴルフなどができないかと何回か見に行きました。ご存知のように広いです。2段にわたってあります。一段目を駐車場にして、二段目をいろいろなグラウンドにきれいにしてもらえば現在の中央公園の広場のよう形をもう一箇所作れるのではないかとということで、昼も夜もいろいろな人たちが利用できるようなグラウンドができるのではないかと。それから3番目は現在3千数百名の会員がいる有田老人クラブ連合会ですが、事務所がちょこっとした事務所しかありません。いまからおそらく、いろんな社協との連動が求められているところですので、ぜひ、きちっとした事務所を、我々は十分活用して社協や生涯学習課や健康福祉課とも連携してやっていきたいという意欲を持っておりますので、そのあたりもお願いします。

山口(睦)：観光という視点で書いております。誇りに思っていることに関しましては、岩崎会長からもありましたが、本当にすばらしい資産がたくさんある町で、佐賀県内の他の市町さんからも非常にうらやましがられているような状況です。いま日本遺産ということで、佐賀県長崎県の8市町と共同でいろいろPR活動などを始めたことですが、今後の中心になって進めていかなくてはならないというポジションにあるのではないかと考えております。課題ですが、観光地というか、見ていただきたいところが町内に点在しておりまして、それを結ぶ二次交通がほぼないということが非常に課題だと思っております。中でも内山地区に関しましては、有田に来るお客様の80%以上がマイカーでいらっしゃるのですが、マイカーの駐車場が殆どないということが、お客様のほうからも不便だという声を再三、再三、再三言われているので、整備していただきたいなと思っているところなのですが、内山地区の皆さんが通りをどうしたいのか、観光地としてやっていきたいのか、それともそうじゃないのかとうところが、私は良く分からないので、その辺を皆さんの気持ちの一つになるようなことであれば、推進していかれたいと、難しいなと思ひながらやっているところです。

徳永：課題はたくさんございましたが、2点に絞ります。誇りに思ふことは、先人や関係者の功勞により、陶器の郷有田の名が国内外に普及し、日本遺産に登録されたことに誇りに思ひます。人間国宝や伝統工芸士のかたがたくさんいらっしゃいますが、そういったかたを育んだ山紫水明の景観、人材を育成する環境として有田工業高校や窯大、九州陶磁文化館、窯業試験場など。有工や窯大については別紙に資料をお

渡ししていますが、どうしても有田駅を中心にした、先ほど山口委員からは自家用車での観光客ということで、これは乗降客の数字が少なくなっております。自家用車利用が多いということだと思います。観光協会さんのデータでは観光客が200万超でございます。このデータについてはJRさんとMRさんから資料をもらったのですが、JRさんの場合は、有田駅は子会社なのでそこでデータは取っておらず、長崎で取っているのです。しかも、乗車券の発売件数で取っているもので、片道しか取っていません。課題としましては駅前が非常に狭いもので、駅前の対策が課題ではないかということです。内山通りの環境問題でございますが、家と家の間が非常に狭いのです。文政の大火がありました、約50センチしか間がないのに、そこにゴミ集積所が設置されています。環境課のほうでもやむなく許可されたのだと思いますが、観光客がちょっとタバコの火をポイ捨てでもしたら、非常に怖いのです。将来の有田について期待していることですが、町長のほうも道路計画の問題も3点ほど挙がっているようですが、道路が整備され、巡回型の町になっていけば、将来的に不便なところが解消されるような交通の利便性が出てくるのではないかな。特に高齢者につきましては、免許返納の運動がありますので、将来的に少子高齢化が進んでいったときに、やはり交通手段が必要だと思ひまして、巡回型社会になっていくような方法を考えないといけないのでは考えまして課題に挙げています。それから、大樽以東については、陶器市以降に下水道布設の問題があります。併せまして、無電柱化の問題があります。道路が狭く迂回路がないもので、車対策はどうなるのか心配しているところです。空き家問題がありますが、黒傘田の住宅地でも高齢化が進んでいるのではないかと思います。そういったときに将来的に、交通手段がないものですから空き家が出てくるのではないかという懸念をしております。

道津：現在の有田町についてということで、誇りに思っていることは、陶工李参平の陶祖祭を毎年行っていることですね。課題は地元には窯業大学校があるのに卒業生を受け入れる企業が少ない、若い働き手が町外に流出しているということで、やはり、窯業大学校の場合は、波佐見が受け入れて結構元気がある窯業になっているのではないかなと思っております。それから、将来の有田町ということで、期待していることはふるさと納税の商品企画開発に力を入れて頂きたいと思っております。特に平戸市などが年間20億円以上のふるさと納税で町を元気にする開発資金に使っております。心配していることは少子高齢化が進んでいること。親の年金で生活している40代50代の人少しずつ増えているという現在の引きこもりに繋がっているような感じも見受けられると思っております。民生委員の立場から問3の町政への意見ですが、いま政府のほうで介護制度が変わっていて、要介護の1、2の人が在宅介護になっていますが、医療、町政、社協、民児協、老人会とのネットワーク作りが喫緊の課題ではなかるうかと思っておりますので、ぜひ進めていてい

ただきたいなと思っているところです。

岩谷：有田町の町政についての意見についてお話させていただきます。私は有田に 40 年近く住んでおりますが、結局、昨年 400 年祭がありまして、仕事からみで有田のことを良く知る機会がありました。40 年住んでいる間に、あまり知らないことがたくさんありすぎて、逆にショックを受けた状態でした。私も P T A 関係で子どもたちとふれあう機会が多いのですが、子どもたちには昨年の 400 年のときにクイズを出したりして、有田町を良く知ろうということで、勉強会があったりしました。こういったものをもうちよつと場を設けてもらって、そして、有田の陶磁器の良さ、西有田の歴史という歴史は何があるかなと思ったのですが、昨年 3 月末にミュージカルおさいのスタッフをしております、唐船城を基にした歴史のお話をミュージカルにさせていただきました。その時にも知らない場ということがたくさんあって、ミュージカルを通じてお互いの歴史を知る機会を子どもに与えられたことができたなと思っています。やはり、歴史をもうちよつと有田町、すばらしい、みんな一人ひとりがガイドになれる、本当に素晴らしいことだと私は思いました。地域活性化のためには、皆さん一人ひとりが有田町をよく根深く知って、歴史を知って、有田町よかばいってというような、世界に通じる有田ですので、もっと発信できたらいいのかなと思いました。

川尻：誇りに思っていることは、文化協会の立場で言いますと、11 月 1 日から 5 日まで 10 回ほどやってきました文化祭が一番の誇りだと私たちは思っています。町外から来ていただく方が、自分たちの地域よりもすばらしいよと行っていただくので、私たちは誇りに思っ毎年がんばっております。課題に思っていることは、やはりどこでも一緒ですが、会員の高齢化による会員の減少です。若手のかたを引き込んで、伝承をしながらの会員の確保を私たちは課題に思っているところです。会長は陶芸文化の共有、有田に住みながら陶芸のこと、歴史のことが無関心だということで、勉強していったらいいのかなと思っています。産業の担い手の育成とともにです。期待をしていることは、昨年の 400 年祭でマスコミによる積極的な取組で脚光を浴びた町、仕掛ければ必ず人は集まるというようなことを私たちが体験をさせていただきました。私は、出身は西有田ですが、西有田の人は何も 400 年祭なかったねといわれるのですが、やった人は本当に満足感を、自分たちで考えながら 400 年祭をどう盛り上げていくかと、文化協会なりに頑張ってきましたので、達成感があります。その気持ちを充実させながら、401 年に向かって各々がいったらどうかなと思っ書いております。心配していることは全体的なことですが、急激な人口減少や少子化、高齢化、家族形態の変容などがありますが、このような理由でやはり伝統芸能も薄れていくのではないかなと考えています。町政についてではないのですが、観光面でも山村留学ややきもの留学とかさせたらどうかなということと、やはり、内山地区が駐車場などが無いので、小学校の改築より大型駐車場とか道路整

備とか会議所移転とかどうだろうかということで書いております。それと、文化祭のほかは私たちの展示場所が何も無いので、生涯学習センターの講習室などをお借りして、文化協会に管理委託をさせていただいて、常設展示の会場にお願いできないだろうかということを書いております。

庄山：私は農業委員との立場での出席であります。有田を見ますと、観光資源は非常にあると思うのです。ただ、何分にも陶器市をメインにした考え方で、日々のお客さんに観光してもらおうという観点が無いような気がするのです。上有田地区に駐車場等をもってきて、日々観光にこられるような、そういう場を作らないと、なかなか来てもらえないのではないかなという気がします。願わくは、湯布院みたいに、有田焼をメインにしてできればいいのかなと感じがします。有田町の農業は中山間地に立地していますので、荒廃地が出ております。今後なおさら荒廃地が増えるだろうということを懸念しております。その中で、荒廃地に向けて、有田にお客さんを日々呼ぶというようなことで、農業とタイアップしたことができないのかなと。例えば荒廃しているみかん園あたりにオリーブの木を作付けして、観光にこられるかたに町の売りだと販売するとか、農地に自然保護区ということで畜産業をしているかたとできないのかなという気もしています。畜産農家からするとコストが10分の1くらいになるという話も聞いていますので、そういうことで、荒廃農地を有効に利用して、そういう出た農産物で有田に観光にお見えになったかたに、そういうものができないのかなと、要するに6次産業化だとか、グリーンツーリズムとか農家民泊とかいったものができないのかなというのが私の意見です。

川内：私は技術系の仕事をしておりまして、どうしても技術的なことに視点がいくのですが、400年事業をしてあまり表に出ていなかったのですが、伝統技術をすぐにも出せるような状態にあるのです。素晴らしい製品を作られたということに感心をいたしました。海外に向けても、ニーズにあった新製品の開発など、やればすぐにもできるのだなという底力を感じたということも400年記念事業を経て感じています。それから西有田のほうは山に囲まれて清流が豊かに地域であり、そこに農産物ができているわけですので、こういうところを前面に出してPRしていただきたいなというふうに思います。課題に思っていることとしては、あまりにも窯業を中心としたまちづくりが進んでいるために、一般的な食器の販売が低迷するのではないかなと考えています。そういうことで、今後のまちづくりのなかでやきものを中心に考えた場合、なかなか町内の生産の向上は難しいのではないかなと思います。自動車関連企業がリコールの問題で存続の危機に直面しているということも。そういうことを考えながらまちづくりを進めていく必要があるのではないかなと思います。農業に関しても、イノシシの増加もあり、農業ができる環境がだんだん狭められている、侵害されており、清流という言葉も、イノシシが水場で生活するようになっていきますので、清流が汚水のようになっています。将来どうなるのかという

ことを考えるといろいろな技術の中で件の窯業技術センターの欄を見たのですが、3Dの成型技術でホンダのNSXの模型が製作されておりました。素晴らしいことだと思うのですが、こういうことが今後の販路拡大の中で出てくるのではないかなと思います。また、そのまま3Dプリンターで立体的な成型をやるという技術も研究されているようですので、ろくろとは違った技術革新が起こるのではないかなと思っております。心配するのは、人口に関しては子どもが生まれることだと思うのですが、住民が定着するということが一番大事なことではないかなと思います。産業を支える中でも、若者が定着しないと、産業が発展しないと思いますので、そういうことを書いております。それから、都会でふるさとを離れて住まれて、Uターンしてしごとを継ごうとしても、なかなか仕事がないということと、農業者がなかなか生活できないので、Uターンする農家が少ないということは、現在、農業をされている農家の負担が大きくなってしまっていて、高齢化になっていきますので、いまやっている農家のかたができなくなったときに、どうなるのかと、町内の生産体制自体が荒れる方向に来ているのではないかと考えています。今後の目標として、佐賀県全体のことを考えても農業、窯業、すべての産業がいま低迷しているのではないかなと思います。漁業についても有明海のノリの問題とかあるのですが、産地自体が弱体化しているということが非常に危惧しております。波佐見にはキャノンの工場や車関係の新しい企業が進出しております。若い世代の定着ということを考えると、子育て支援とかそういうことも重複してやっていただきたいと考えています。具体的に言うと、保育園の跡地利用として子育て支援センターの整備とかをやっていただきたいし、月に2回ほどやられているものを常時やられるような子育て支援が充実すると、若者が安心して住めるようになるのではないかなと思います。有田は西九州道により武雄や佐世保のルート上にあると思うのですが、現在、唐津伊万里方面から工事がどんどん進んでいまして、どちらを回っても博多に行くには時間が変わらないという状況です。もう少し伊万里や唐津経由の西九州道に視線を移しても良いのではと思います。九大のキャンパス移転も人口のほうは唐津のほうに進んでいますので、そこら辺で新たな動きがあるのではないかなと想像をしております。

今泉:簡単に一言言わせてもらいますと、教育委員の立場で学校を回らせていただいて、驚きましたのは、ふるさとに大変誇りをもっている、よく歴史を勉強している。こういう人たちがまちの将来を支えていけば、非常に期待が持てるのではないかと、先生たちのご尽力の賜物と思います。私はアルバイトみたいな形でラジオのリポーターをさせていただいて、3年間務めました。町内のあらゆるイベントにはなるだけ参加し顔を突っ込んできました。そうした中で、町で企画されたり民間で企画されており、行かなきゃ良かったと思ったものは一つも無かったです。ただ、参加者が問題だと思うのです。皆さんがひとごと、自分が主役じゃないひとごとみ

たいなところがちょっとあるのかなと思います。ですから、住民会議のような仕掛は非常に素晴らしかったのではないかなと、おそらく参加した人たちは、自分がまちをどうにかしていかななくてはいけないのだと、少しは思われたと思います。こういった参加型を仕掛ける方法をもっともって町のほうで工夫される必要があるのではないかなと思います。ソーシャルネットワークが大変発達していますので、仕掛けを大切にしていけば、先ほどのビデオで婚活と岩尾さんが言われていましたが、横のつながり、縦のつながりがどうしても必要になり、それをしないとこれから先のまちの発展は望めないのではないかなと思います。

久保田：皆様からいろいろな意見をいただきまして、参考にさせていただきたいなというものがいっぱいありました。とにかく有田というのは本当に（資源が）あるまちだと思っております。広い文化があるまちだと思っております。私たちもその有田町の人格に劣らないような議会活動をしなきゃならないと思っておりますし、有田の人格を高めるような、歴史的な人物もおられますので、その方々に恥じないような知識などを子どもたちに伝えていかななくてはと思います。その辺、教育が非常に大切だと思ってます。有田小学校を造っていくことになりまして、少子化の問題が出ておりますが、人口の流出など切実な問題がありますが、これも抜本的な、上有田の町民含めて、負担が変わらないような形で内山地区に人が増えるような施策をしていかないといけないと思ってます。個人的に言いますと、観光について、400年の記念のときに民泊をしてみました。正直言いますと経営が成り立つような状況ではありません。どうやって泊まってくれるか、観光客が1～2日滞在していただけるような仕掛けを続けていかなければと思ったところです。皆様方が思っておられる一つ一つの問題点を一つ一つクリアしていけば、必ず有田町に人間も増えるし泊まるお客さんも来てくれるだろうと。農業含めて非常に厳しい状況ですが、少しずつ改善に向かっていこうと思ってまして、こういう会議がさらに発展していけば、必ずや策が見出せることを確信させていただきました。

岩永（喜）：誇りに思っていることは箇条書きにしておりますが、皆さんと同じでございます。課題と思っていることもほぼ一緒だと思います。将来の有田町について、ぜひ若者の流出を防いで有田町に住んでいただきたい、そういった施策を期待します。心配していることは農業の衰退による耕作放棄地の増加で、環境が悪化しており、これは喫緊の問題かなと思ってます。町政についての意見ですが、これから有田町のまちづくりをどのように進めていくのかということが、大変重要なときだと思えます。住んでよし、来てもらってよしのまちづくりを進めてください。行政、議会を中心に町民との数多くの対話を実施して町民への周知の徹底、意見を求めていくことが大事であろうと思えます。全体的な感想の中では、住民委員会の中に、私も参加して非常に勉強になりましたが、いろいろな意見がありました。若い人たちの意見も大変勉強になりました。ぜひともこれを議員さんたちにも聞い

てもらいたかったなという気持ちでございました。一人見かけたのですが、議員さん全部きてもらいたいなという思いでありました。それから住民満足度アンケートで有田町への永住以降で町内の別の地域や他市町へ移りたいというものが29歳以下で16.7%もあったということで、これは問題かなと。近所づきあいや地域づきあいがわずらわしい、学校や地域の行事が多すぎて辛いということもありましたので、これも区長会の中で課題として出して行きたいと思っております。

岩崎：これは審議会のほうで部門別に分けるなりして、次回の審議会までに事務局で体系化し分かりやすく将来に向けてのビジョンを示していければなと思っております。

木寺：本日、専門委員として小坂学部長にご参加いただいております。地域おこし協力隊や内山地区でのいろいろな取組を含めて、大学のほうのご協力もいただきながら進めている部分もありますので、今日の皆さんのご意見を含めてところで、全体的にご意見あられましたらお願いします。

小坂：4月より有田窯大が佐賀大学有田キャンパスに変わるようになります。今のところ、1年生しかいない芸術地域デザイン学部も2年生の一部が有田キャンパスで勉強させていただくことになっております。ですので、まだ人口増加にちょっとだけ貢献できるかどうかというところで、何人かは有田町に住むということで、昨日も地域おこし協力隊のかたに来ていただいてシェアハウスのご紹介をしていただいて、こんなところなら住んでみたいと思った女子学生などいたようですので、少しずつ、有田に学ぶ学生は有田に住んで、住民のかたと交流するようにと強く私たちも勧めているところです。同時に、大学の中に研究所組織も一部立ち上がりまして、肥前セラミック研究所と呼ぶのですが、サイエンスとしてのセラミックスの研究もありますし、デザインとしての陶芸の研究もいたしますし、もうひとつはまちづくりの視点から、窯業だけではなく有田全体を考えるというようなことにも少しやらせていただくことがあるのではないかと考えております。まだ、4月以降ではないとそのあたりをお知らせすることにはいたりませんが、私たちとしては、そういう形でやっていきたいと思っております。町に大学があるところは意外と少ないのです。多くは大都市なのですが、町の中に大学ができるということで、少しでも町のかたとどのようにやっていけるのかというのが一番の課題ではないかと、学内でも話をしております。その中で、今日出席させていただいて本当に良かったなと、いろいろなことを思いました。有田のまちの方々が誇りに思っているということをこれだけたくさん書けるとか、おっしゃられるというのはすごいなと思いましたが、同時に課題もかなりきちんと整理されていっちゃうのだなという気がします。こういったところも大学の中で共有しながら、少しずつ皆さんと一緒になにかできることをやっていければというふうに思いました。なかなか課題となっているところは有田だけの固有の問題ではなくて、日本の中のいろいろな問題だと思うのですが、一方で誇りに思えることをこれだけ出せるのかということになると、実は皆さん

苦勞してらっしゃるところがあると思います。水がおいしいとか野菜が新鮮でおいしいというものはどこでもあると思うのですが、それに付加したものがたくさんあるということが有田の魅力なのだとすることを改めて思いました。私自身、今佐賀に住んでおまして、それ以前は隣の佐世保に住んでいたのですから、そこから見ると有田はなかなか羨ましいところでもあったのですね。それは、資源があるということだと思います。それと、もう一つ有田に魅力に感じていることは、ものをつくってきた伝統というものが、佐世保のようにあまりものはつくっていなかったところから見ると、ものすごくポテンシャルを持っているものが大きいと思うのですね。何かを作り出す力があるのではないかと意識して見ていましたので、それも今日のお話の中から出てくるかなと思ったところです。4月から有田町の中に大学ができるということで、仲間に入れていただきたくよろしくお願いします。

木寺：次回は住民委員会3月に4回終わりますので、構想の材料となるものをお示しして協議していただくということで、次回は少し時間を要する会議になろうかと思えます。3月の後半になると思いますが、また改めまして通知と資料を送付させていただきたいと思えますので、よろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。